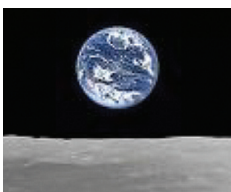


ものづくり産業を支える仲間たち②5

JAM—明星電気株式会社

今回は、東京から上越新幹線やまびこで50分程の本庄早稲田駅から、車で10分くらいのところにある「明星（めいせい）電気株式会社」を訪ねさせていただいた。

社員はおよそ330名の会社であるが、実はいまこの会社が注目されている。2007年9月に打ち上げられた月周回衛星「かぐや」に搭載された14の観測機器の内、何と8機器の製作を明星電気が担当している。8機器の内の一つは、あの月の地平線から「地球の出」の映像を地球に届けたハイビジョンカメラだ。



月の地平線からの「地球の出」

明星電気は1939年の創立の年に明星電気初のラジオゾンデ（気象観測機）1000個を受注し、開発・生産した。以来、同社は、一品一品、注文に応じて開発・生産をしている。顧客の75%が気象庁や航空宇宙局（JAXA）など政府関係なので、ほとんどCMも出していないが、知る人ぞ知るユニークな会社である。自らを「先端技術を活かし、～水中から宇宙まで～をテーマに人と社会の豊かな未来づくりをめざす世界の総合環境観測メーカー」と位置づけている。ちなみに、天気予報の時に必ず出てくる気象観測機「アメダス」も同社の製品だ。

同社の特徴は、「従業員」第一主義。一つには、従業員のコミュニケーションを大事にしている。社長自ら、先頭立って毎日、職場を作業服を着て歩き回っている。何か従業員が困っていることが無いか見て回って自らコミュニケーションの音頭を取っている。

500名が一同に入れる社員食堂の壁には、「書道」「絵画」「卓球」などたくさんの趣味の名称と、それぞれを愛好する従業員の名前が貼

ってある。これによって、職場のコミュニケーションを図っている。就業後や休みの日などに同好の士で集まったり、思い思いに活動している。

二つには、従業員の一人ひとりの技術を大切にしている。別の会議室に行ってみると、今度は、いろいろな国家試験の資格を持っている人の名前が、資格の名称の隣りに貼ってある。一番最初の左側は、「工学博士」から、機械技師の資格や、溶接技師の資格などずらーっと貼ってある。技術的にわからないことは、わかっている人にどしどし聞くという風潮が生まれ、3年前からは皆で教え学びあう「明星エンジニアリングカレッジ」を社長の発案で始めている。これが、新技術の開発や伝承に役に立っていることは間違いない。

顧客の注文に応じて、一品一品開発・生産するので、開発部門は重要だ。ここで働く技術者の多さで力の入れ方が分かる。4年前、会社が大変な時期には、この開発部門は11の部署に分かれていて、それぞれ縦割りにバラバラに仕事をしていた。上澤現社長が3年前に会社の再建を任されてまずやったことは、開発部門の部署の仕切りをなくして、一つの大部屋にしたことだ。何か問題が発生すると、本部長がすばやくそこに行き、問題点を洗い出し、みんなでお祭りをやるみたいに、力を合わせて解決するようにした。どんな課題、難問がこようと、開発部門全体で寄り添って解決してしまう。わいわいがやがややるこの場所を「お祭り作業場」と名付けている。

表紙のイラストは、人工衛星に搭載する観測機器の製造をしているところだ。宇宙空間で作動する機器の製造には一切のミスは許されない。1本1本の配線に到るまで高度な細心の熟練の技が要求される。

人生の大半を費やす働く場

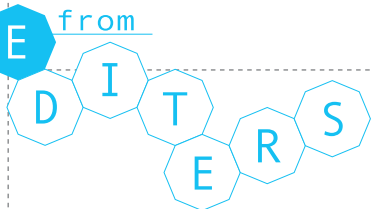


人工衛星に搭載する観測機器の製造工程

はできれば、みんな和気藹々と、楽しい雰囲気のところできたいとみんな願っているに違いない。そんな一つの理想の形がこの会社にはあると実感した。(美)



大部屋スタイルの開発部門



◆今号では、「国際労働運動の潮流と新たなIMF運動」と題して特集を組んだ。2009年5月に、4年に1度の第32回IMF世界大会が、スウェーデン第2の都市イエテボリで開催された。これを機に、今回

のIMF世界大会の意義と、国際労働運動の潮流について考察した。IMF(国際金属労連)についても、歴史的経過も含め、その存在意義について小島顧問に執筆いただいた。一つの組織についても、その歴史を知らずして、その将来を語ることはできない。しっかりとIMFについても歴史を学んでいきたい。

◆我々が住むこの日本の国づくりも大きな変革期を迎えている。政権交代が完全に視野に入ってきた現在、新政権は政争に明け暮れることなく、そ

の主人公である「国民」の視点に立った政策実現に邁進してほしい。我々IMF-JCの視点から言うと、この国の経済の生命線である「ものづくり・金属産業」の基盤づくりを成長戦略の基本に据え、サポートすることが肝要だ。その際に、エコ社会実現の要となる、日本のものづくり産業の存在は大きい。新政権が、そういう意味で、ものづくり産業を要に据えた成長戦略を推進することを期待したい。(美)

Summer issue  
[夏号]

〈おわびと訂正〉  
前号(2009年春号)のP10左上の写真キャプションに誤記がありました。おわび申し上げますと共に下記のとおり訂正します。  
「民主党政調会長大島議員へ～」誤  
「民主党政調会長直嶋議員へ～」正  
(IMF-JC 組織総務局)